

令和 4 年度 墨田区立梅若小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 1 0 日

学 校 目 標	人にやさしく、自分に強く
目 指 す 学 校 像	<p>○梅若クオリティー 教育の質の向上を図る学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人を大切に、たしかな学力と豊かな心情を育成し、梅若小学校で学ぶ喜びと誇りのもてる教育質の高い学校</li> </ul> <p>○梅若プライド(誇り) 教育者としての誇りをもつ学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅若小学校教職員として自覚と使命をもって互いに協力し合い、梅若小学校で働く喜びと誇りのもてる学校</li> </ul>
目 指 す 子 供 像	<p>○自ら学ぼうとする意欲をもち、進んで挑戦する子供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことが楽しい、もっと知りたいと思えることが主体的な学習である。子供たちの学びの意欲が高まる教育を目指す。</li> </ul> <p>○よく聞き、しっかり伝え、お互いに大切にすること子供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを知る、自分との違いを受け入れることから、円満な人間関係は始まる。一人一人を大切にする教育を行う。</li> </ul> <p>○自分の役割と責任を果たし、協力し合う子供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たち一人一人に適切な役割があり、達成し、完成させ、果たす満足感と責任感を味わわせ、自己肯定感を養う。</li> </ul>
目 指 す 教 師 像	<p>○愛情と夢をもって子供と関わり、温かくも厳しく指導する教師</p> <p>○向上心を常にもち、自己研鑽に努める教師</p> <p>○教職員として自覚と使命をもち、保護者や地域から信頼される温かい教師</p>

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において質の高い課題解決型授業を行うために、授業参観や研修を充実させる。また、定着を高めるため練習問題の時間を必ず確保する。</li> <li>・ICTを活用した AI 学習アプリを導入し、児童一人一人の力に応じた学習ができるようにする。</li> </ul>	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型個別指導計画や個別の支援計画に基づく、支援を行う。</li> <li>・通常学級と特別支援教室、日本語学級が連携してそれぞれの専門性を生かした授業のあり方を研究し、個に応じた組織的な支援を行う。</li> <li>・生活指導全体会や夕会を定期的に行い、個の諸課題について全教職員で共有し解決する。</li> </ul>	B	B
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートを活用したり、中学校との連携を行ったりして見通しをもったキャリア教育を行う。</li> <li>・夢と希望をもつことができるように定期的な校長講話やキャンペーンを張ることによって意識を高めることができるようにする。</li> </ul>	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長主催の授業力向上研修を引き続き行う。各学級や特別支援教室、日本語学級で模範授業を行い、直接一人一人に指導できるようにする。</li> <li>・特別支援教室、日本語学級を含めた通常学級との協業授業の研究を行う。</li> </ul>	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A I を活用した教育アプリの導入が進んでいることに期待と不安がある。桜堤中学校との連携が進むことにも期待している。</li> <li>・ コロナ禍においても様々な工夫で子供たちに学びの環境を提供くださり、ありがとうございます</li> </ul>		

様式 4

		ました。今後アフターコロナの状況となりますが、益々子供たちや保護者、地域のよりどころとなる学校運営をお願いします。
--	--	---

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つ一つの課題を担当や学年が負担することなく、学校組織として迅速に行ってきた。分担して多角的に対応する取組を今後も続ける。</li> </ul>	A	B
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重教育推進校として研究を続けている。特別の教科道徳授業など今後も児童の人権意識の向上と人権感覚の育成を図る。校内での人間関係は改善が見られるが、校外での児童の様子を向上させる取組を行っていく。</li> <li>校内挨拶キャンペーンを年間3回以上行った上で、地域と連携した挨拶運動を年間2回以上行い、実践力の向上を図る。</li> <li>効果の高い思いやりの木の取組を年間2回以上行い、優しい心を育てる。</li> <li>全校朝会時の校長講話を活用し、いじめ防止に関する講話を月に1回以上、継続して行う。</li> </ul>	B	B
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した総合防災訓練を通して学校と地域の危機回避能力の向上を図る。</li> <li>児童の転落、校外脱走防止対策を徹底する。</li> <li>臨場感や危機感のある避難訓練計画を作成し、児童の防災能力の向上を図るとともに、教職員の救助能力を向上させる。</li> </ul>	B	A
	いじめの根絶不登校の解消	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>事案の発生と同時にいじめ防止委員会と不登校対策委員会を組織し、外部機関と連携して機能的に取り組む。</li> <li>家庭訪問や保護者面談を通して、常に学校と家庭がつながりを保つ。SCやSSWなどを活用して不登校の解消を図る。</li> <li>校長講話を通していじめの撲滅と人権について講話を続ける。</li> </ul>	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> <li>長引くコロナ禍で子供たちの安全に配慮しつつ学習や生活の指導を行うことは本当に大変ななた先生方の努力には頭が下がります。朝の挨拶などで見かける元気で明るい笑顔は先生方の努力の賜ですね。特定の児童ですが、上履きに履き替えずに入っていく児童を複数見ます。常態化しているようです。</li> <li>読み聞かせの活動を行ってきました。年度によってそれぞれ特徴があります。読み聞かせは「心をはぐくむ指導」に関係していると思いますが、その一助になれば良いのですが。そういう意味では私自身も評価されなければと思っています。</li> <li>子供はタブレットで先生にいろいろと相談でき良いと思います。ただ、働く保護者にはなかなか機会がなく、連絡帳だけのやりとりになってしまうのが残念です。</li> </ul>		
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌を毎年度見直し、効率的で教職員各自の力量に応じた組織として、業務効率の高い学校運営を目指す。</li> <li>学校反省を生かして業務の精選図り、指導効果の高い教育活動を目指す。また、創造性豊かな教育活動を生み出し、時代のニーズに適合した指導を行う。</li> </ul>	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態を把握するために、年間2回以上児童アンケートを実施し、教育目標の達成度を測る。その結果から</li> </ul>	B	B

様式 4

理 運 営	等を適切に行っているか。		課題解決の取組を見いだす。 ・学校評価をICTと紙媒体の両方で行うことで、数多くの調査対象者を網羅する。教育目標を広く周知徹底させるため、保護者や地域への発信を積極的に行っていく。		
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	B	・感染症防止のため、今後も適切な防止策を施していく。 ・ICTの活用が定着したが、効率的・効果的な活用ができるよう手だてを講じる。また、安心してICTを活用できるようにセキュリティーやマナー、リテラシーの充実を図る。 ・生活指導部や担任が施設設備や環境の安全点検を毎月行うだけでなく、課題点を教職員で共有し改善に当たる。	A	B
	教員の教育力、人間力向上のための取組等	B	・研修体制の充実を図る。若手授業研究会や教科研究会をとおして、教員の自己研鑽力を向上させる。年間30回以上研修を行う。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		・教員の働き方改革がさらに必要である。本来家庭が行うべきしつけを学校に頼っていることが多い。地域も協力したい。 ・いつも子供たちのためにありがとうございます。学校、教職員の皆さんに感謝して子供を通わせています。これからもよろしく願います。 ・PTA役員会でもお話いただきましたが、来校者全員のネームタグは配布できておらず、この後の課題です。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家 庭 ・ 地 域 連 携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	B	・HPやCOCOOなどICTを活用した情報発信をますます充実させる。家庭環境などを考慮して、紙媒体での配布も残す。HPにおける情報発信コーナーを盛んにして、日頃の学校生活状況を月1回以上の頻度で更新する。 ・学校だよりをA3版両面に変更し、写真やレイアウトとともにあらゆる教育活動について掲載した。更により充実した情報の発信を行う。	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	A	・益々保護者や地域との連携を盛んにするため、学校行事や日常活動の公開を行う。また、地域防災力の強化のため、避難所設営訓練や合同防災教室などを企画する。 ・地域を巻き込んだ生活指導を行うため、挨拶運動や声かけ運動を行っていく。 ・学校運営連絡協議会やPTAと情報を共有して議論や話し合いをこれまで以上に活発にする。子供たちの指導や支援を学校内外で連携的に進める。	B	A
	関係諸機関との連携	B	・地元警察や民生委員、児童相談所、子育て支援センター等と情報交換やケース会議などを行い、連携を密にする。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		・梅若コミュニティー会館の運営にご協力いただきありがとうございます。これからも様々な面で連携しながら地域の子供たちが安心して過ごしていける地域を目指していけたらと思います。 ・私も地域の自治会活動に長年関係してきていますが、堤小学校時代と比べ縁が薄くなっていることを感じます。学校選択制になり、団地から通学してくる児童が少ないということもあるのでしょうか。平均的な学校も良いのですが、特徴のある学校を願っています。 ・日頃の情報交換等ありがとうございます。引き続き連携して子供たちの支援ができればと思っています。今後ともよろしく願いいたします。 ・仕事のため、なかなか個人面談にもうかがえず、コロナ禍で茶話会もできずでこちらも来年度は再開したいです。		

2 令和4年度学校評価のまとめ

#### 様式 4

- ・地域からの期待が大きかった学校との連携はコロナ禍でもできることから始め、地域挨拶運動や墨田区防災訓練の避難所設営訓練を実施した。これらは地域から歓迎され、益々連携の取組を広げていきたいと考えている。
- ・同様に保護者から学校との意思疎通の不満が高まっていると感じる。保護者学校評価では昨年度比－5ポイントであった。コロナ禍で限られた手段と方法、回数から生じていると考える。次年度は開かれた学校を取り戻し、風通しの良い学校を目指す。その他保護者学校評価ではおおむね前年同等であった。前項目平均約93%。
- ・児童学校生活アンケートを年間3回行った。その中で、「いじめは絶対にしてはいけないと分かっている。」の項目で99%の児童が分かっていると答え、その割合は向上している。反面、「先生に相談事や悩み事を話しています。」の項目では約54%が否定的に回答しており、教師の関わり方が大きな課題であると浮き彫りになった。
- ・本校最大の課題である学力向上は、地域も期待している。これまでの取組の効果検証を行い、効果の低かった取組からより効果の高い取組へと想像していく。その中で、長期記憶定着アプリの活用は本校の学力上課題である基礎知識・技能のみ定着に効果がある取組と期待している。

以上の通り報告いたします。

墨田区立梅若小学校 校長 安藤 芳典 公印